



江戸遊在所名集 全

5
4503



門 5
號 4503
卷



迎法所名の自高息の判志多一
おまふり一高ふ名所を誦る是
者多一誦法し不名誦しひ
山只七十の理年あふり
あり一書壽の主所名集を歌
か一いま又後編を法り
せん事一法り一法り
毫を執ふ集法起一神編
事一これと一と一と

昭和十年
七月九日
購求

述々此集の所々

桐榮舎秀鳳

江戸迎在所名集後編

东叡山

上野河のまの比叡といふや久良の比
花見那集

五條天神

京五條のうらうらうの夜寶船
本餅を出さおらう焚とも云う

夜神系よ葉をまじり年柿 秀鳳

袖巻は支友して舟を寶船

喜之子の雁く不よ木の火

伴町

沈の端中画の楹屋といふ小石物とせ
河の繁葉の町あり

夕湯子楹屋より廊も葉柿

涉黄梅

上野中堂の菊より

護國院

同所清水門の内三月三日大星の湯と出た
其跡取集名あり

大星乃湯より茶碗宴かき

大星の湯を掬て茶碗宴かき

信忠坂

同所坂中一出る不布そき坂あり

車坂

同所菅廣徳寺あり

廣徳寺

むらふよいありの宮在り廣徳寺編み
いふ浅草親善の通り磯の石也

吉原の湯より笑ふ一夜酒

之味縁坂

佐竹攘夷門前浅草川分岐の處に
ありて船往來

吉原の湯より味縁坂や厚氷より下東

鞆ハ滝之味縁ハ坂長巻ハ坂

えりめの之味縁坂より松の尾

花房町

筋遠所門の外陰者菜屋あり

板原了場

久吉橋つ丁裏面あり橋一出る所
跡村大的の替古場

茅町

浅草水門外破丁より母子板の同屋あり高
蒲を益を教越新の節白紙ひの不賣出
所人形や多し

浪杏八幡

浪草橋井丁茅丁の裏面浪杏の本は
の浪草枯てそは浪草之りけ不子年久敷
ト居るあり元日子系語

有難き春や浪杏の栢より一漢

天王町

牛取三三の宮在る高所の法也六月
八日祭礼遊楽子夜橋し是を五人子取

神の町 乃志 照て 菅原子

那集い出子といつてけい福難どのうらむこ
つて阿くそひえるに谷子け氏子有て
毎年菅原子以上福難入るに六月代
舟の者あり宮原進き阿くうまて皆元
と進進竹斗非あり物む是糸礼あり

福富町

水落方に丁表通し水落火除地いりあり
也よけ名阿くや志とけ

朝鮮長屋

池以迄朝鮮人參産ありとつてけ名阿く
湯宿大指富り心と

堀田系

浅草法務丁の表通し堀田表水落敷法六
町表とあり

約形

約形堂あり並木の丸付け阿く三社の非
徳船子寄つて浅草阿つのみは三月十日
佃の獵師阿くそひて非系を寄る非系
を寄る船ハ獵阿くと志り

六つり阿く 約形堂子 町とあり

大川橋

竹町の並み花川戸の本所一橋と本安永三
十年掛る竹丁の橋しも寄て寄人あり

玉鴛山

殊に東表の繁葉ありと志り
本所多田の某阿く浅草川を見晴し
景地百里被徳り碑阿り

死て 垂る 涼 月 成 見る 其の 万 里

あふ せり 入る 白 枯 見 する 後 徳

心 なる 照る 解 や 雲 の 峯 志 成

首尾の表

浅草水落表の表子有るに格う後
軽の人其阿く阿くと定まり尾り
とてとてとてとてとてとてとてとてとて

姥 乃 表

本所大川橋松浦家のいん表と有権の本
の表とてとて首尾の表有れば表とて他と

猪牙子、藤と娘の歳を見て居り

北割下舟

登坂町より、東地壇に渡る舟あり、多し
津程、極東門に、舟を、左右より、舟にて、渡
来りて居り

南割下舟

熊礼の中、渡り、割下舟

うま、水や、つら、み、芥、の、花、に、其、角

二の目橋

豊川へ、うま、大川、の、二つ、めの、橋、あり、こゝ
くま、あり、こゝ、三、の、橋、の、過、り
豊川の横、橋、言、を、こゝ、の、下、へ、流、る、舟、右
と、も、こゝ、登、坂、町、渡、り

六の間地

昔、北、所、は、東、宅、九、の、所、船、行、り、と、り、て
け、名、望、呼、ぶ、こゝ、八、の、比、比、尾、尾、出、り

あ宅

大川、を、り、豊川、の、入、口、北、所、に、
舟、又、天、の、宮、居、り、也

一の目橋

凍、か、こゝ、人、か、こゝ、日、水、人、過、り、一、所

あ國

神、歸、り、こゝ、橋、の、も、ち、り、こゝ、舟、行、り
い、こゝ、油、見、世、り、あ、宅、と、こゝ、通、用

え板橋

や、り、こゝ、板、の、入、口、側、了、皆、船、着、あり

葉研垣

通、年、程、り、所、家、と、あり、こゝ、八、分、不、動、者
葉、研、集、極、本、賣、多、り

山伏井戸

舟、の、倉、内、に、む、り、こゝ、舟、よ、山、伏、住、り、あり
け、名、阿、り、こゝ、也

さ、り、井、の、こゝ、及、舟、子、こゝ、寸、上、り

下、船、を、こゝ、て、氣、を、去、り、過、り、夕、暮、者

舟、の、こゝ、と、言、い、井、戸、の、是、代

堀町

中、村、坊、の、寺、也、其、所、也

菅原町

市村村在為菅原町二丁とも菅原町一

芳町

堀下大坂下の町新屋より一丁一丁と
名といふ陰月菅原町

思榮橋

むらうは橋より菅原一や新屋人菅原一や
田のへと志河へ行くよりよは名者とも

沿うおきて菅原にきつぬ連

永久橋

沿下分菅原へ渡り新屋新屋より一丁と
といふ廿ある菅原分出て菅原の内より
清をさきと火氣より新屋の思也とあり
朝書の新ひより一丁とあり

突出新地

酒井極分通る沿その比は菅原よりよは
そのより一丁とありと一丁とあり

坂を〜の仲子新地の探の音

小綱町

小松丁分深川米代橋の通る綱町
米穀の問屋ともあり

貝抄子店

大坂丁〜小綱丁へ出る新屋貝抄子問屋
多し

問屋とも菅原の〜とよ貝抄子

荒和布橋

海原より〜とよありてん草あとの問屋
あり〜抄子あり〜とよあり〜とよあり

小田系河岸

年一申春市立つ

駿河町

駿河屋といふ景腹二郎の三井ともいふ
十七番橋といふ飛脚屋あり法玉の
文通自由あり

瀬戸物町

菅原の起請乃屋十七番

藤と忠の飛脚出てり

垣江町

大川分流入の垣江ありありと免といふ
炭釜屋の問屋あり秋の比、粟を商ふるあり

塚 昌

塚昌——近來そのまゝの官屋多し
田所丁の趣く多し大官屋多し其の表
同屋あり

船をぬりりと遊るの汝

宗物町

宗丁皆宗物屋あり新及子校の敷
いありの宗物あり

新茂木丁

茂木屋多し和玉餅といふ名物あり
あまいといふ名物あり

樂屋新及

芝居のいふを皆宗屋に

顔を見せしるるなりと明をあれ

只見世に人も芝居の裏多し

飛く書をも樂屋新及

子 香 橋

元禄丁の富澤丁一渡り本昔一川渡り
と一いつれの所代子を還河の時所代乃
うち酒子餅とちとる是も香橋と渡り
時は八何といふ橋とと所代乃と八
橋とと中上る所代乃とよ
いらあるとけ名ありや知れけ近藤者
ありよ

橋 町

今新及の藝者志の藝者一七層の橋

踊り子の内へ踊ると思ふと

藝者者の年 如古い十七

大傳了町

大傳了町ともいふ昔一け不る次あり
今も傳あり其余風を鱗形とといふ事
紙回を多しその津波を評判記板と並
小三傳とといふも同屋あり其年二目
千とめといひや多し

大門通

小傳言丁二丁目三丁目の間の通りなり此

弁菱橋

傳言丁を板橋(出)る所なり弁菱小左衛門

藍深川

傳言丁のうらをり弁菱橋の流

お玉の池

河原の池川邊に所を所家あり不の名は御

緝屋町

お玉の池の所邊に御土境を築く人なり
の古子といふ所子種人等を賣りたり
所先の由きて廓よりいふ一玄關
業也といふ

深物の旗をたてて遊ぶ

護持院系

今一系より築むる廣一丁場なり

俎板橋

小川丁を飯田丁一丁所船橋

牛の淵

飯田町九區坂下

三荒の淵

護持院河原より飯田丁中坂まで

小川町

今一橋を継子橋のをり是は小石川

三河町

此門との間をいふ
むら一三河の人事して伝説あり

万葉の鳥帽子よき松餅

飯治町

神編なりといふ

多町

寺田町なり

泥亀乃足と山葵其角

お屋町

伊勢屋若屋といふ懐紙屋なり
此の点丸の巻大方懐紙あり

須田町

八つ辻

筋遠四門の内名桑子回登多し甲辰
より丘附のり日く事。

筋遠四門の内度小路下若 水成乃の口標
土の口を次四丁の口松平任賢も標表四門
をの口日表出をの口段向代中坂の口土
際口の昌平橋の口於合入口八つをうて八つ
と云

右田姫指荷

段向代土の際聖堂のむうふ右田乃灌節
法と云り

昌平橋

筋遠四門のありひあり

揚場

右四門の外五月去菰菖蒲市七月並市
師走松市の三所あり

毒恋坂

のありの下乃坂をいふ

仲人も毒恋坂の夜乃雨

り先くう毒恋坂を川子

切通

て神のくくあり之甚よけ名ありありて
ゆま切通といふ油揚の名物あり

湯嶋天神

神端子云々

神田明神

辰年二月款鏡所宮指のりて建以湯
飯殿あり下町のて三社六月祭礼神

樂氏子中をまゐる大徳る丁五日中をい
七日小船丁十日御旅不四飯家建九月十五日

聖堂

明神 祭礼満年より有湯上流あり之
釋奠有孔子十哲十祭あり秋葉ともおき

七曲り

ありともいふ後の字をて杖あり
あり乃橋の昌平橋の月むり一此所大なる
蛇乃住るるをいふそは蛇あり

皂角坂

後河代公あり乃橋下る所あり

皂角水汁代迎ては郭公一海

水道橋

井の頭分所流津田上あり並ふありて
け名あり

不二見坂

石丸様表西門のたが坂をいふ名橋の上あり

書とてふ年見ると月や不二見坂 秀鳳

神音坊表

右目所山登表の内桶の大本河うとて

子入部一子神音の表や母をいふ 秀鳳

除夜越てて軽や神音の表坊表 丁東

所物見子銅管をいふありて

余のちも啼てて門音は森ハ表

毒菓を神音は表乃山うつて

富坂

本々表口丁下る所むくふとて坂
水戸様所うとて西門の表をいふ

福口とて乃小口又とて子所とて

柳町

小石川の門案鴨氷川一の西あり

白山

白山指況の宮在りありてけ名あり遠の
野子萩乃楊枝をいふ白山とて所名あり
ハ津嶺子ありて此不千所殿は有白山
所殿とていふ

雞聲と窪

白山の嶺き夜ふく鶏の聲あり不とて
金の鶴ありてとてとて名とてあり

約込

富士宮在り五月晦日六月終る終る未福物集
麦菓の蛇と名小約込の不二とてあり

蛇ハ蛇の中千ぬとて種あり

麦とての蛇を動く六月

根津

根津の社地度——門前町茶屋あり
音羽丁より——

三崎

極東堂の管中（中）あり

螢津

管中三崎堂の名所あり

いはは茶屋

去——先四十八軒ありてい名を呼ぶ
八十二軒あり

猿守縮居

管中の内土堂子改て釈放給て此茶の
出子とよ茶屋あり

まご花も海——管中此園子

まご——と甘の房。釈母と記

梅見——疾。幸院の廟志ついで

根岸

袖編子——毒——

左邊殿系

入管より大者寺第一山と釈教を小幡給
多——

雨の入管改てくさす平智の殿をこく
まごやうす茶屋あり——まご真あり

檝縮と夕日も濡る——常代 又旅

正焼寺

藤原家の以能ふ袖編妻——

橋平あるまゝはま——遠正焼寺

萩咲くや旭子落城並風——又東

田町

むう——編笠茶屋あり——是をかりて
大門をさしよりありてあり茶屋といふ
茶屋并之袖あり——ありの管中縮居
あり別あり土中の縮居在り

去——京の茶屋田町乃凡中

禿も電る歩草乃富士

又〜や〜ふ娘の電る影糸

富士見ゆ日如掛竿は夜急

姥ら沈

他ありきき〜と後る夜の毒

待乳山

〜〜ふい船の目あり乳山

控よと御〜控牙の火焼粉

総泉寺

歩草原

元禄丙子の年淡月の末つ〜歩草原
出山寺に控ひ侍る富中の梅此のつ〜
斗ある桂乃か〜紙尾つけて贈る草堂
〜と折や〜

草堂紙包し〜ふもふき〜書る六其角

三崎

隅田川

傾城の足袋白〜と隅田堤

後殿

東重ハも〜後殿の白染の火

歩草原と富士大長門のは〜申田と
いふ所〜

本堂の後口三葉之助經流の墓有り
總の泉の城主の〜此の〜三寺之

梅屋の宮本有〜和編子妻〜

此所のをを扱て造るは隅田川法白と
いふ名酒歩草堂本小あり

後殿川より〜橋を扱りて千位出る
〜皆田あり

後城のくづり物く酒乃日

船り火城其く後城の田草元

酒の町

昔西宮大照神の宮に有る酒乃日
取集ころのいもの酒名物熊子の市立つ

半田

船居の宮に有る酒乃日

水神り沈

子位と草かの名草を有る水神り草やと
いふ名あり

越々谷と六月乃井戸

草加

日光左陣子位に有る次

蒲生

焼米の名物草加越々谷のいもの草あり
年中焼米と愛して有る草草といふ

越々谷

草加ありの次大橋あり

大海

越々谷の山より有る草草と有る
女あり

去久里

大海船居の山に有る焼の名物あり

船居

越々谷の山に有る次町の山より有る
子位あり

船り魚の廊下酒の町沈沈

非宮寺

草草の山に有る上宮寺といふ村に有る草草
山に有る名と有る所名の山に有る草草

幣橋

上宮寺の山に有る山に有る草草

幸手

日光乃山に有る山に有る山に有る山に有る
山に有る山に有る山に有る山に有る

久志

宮中氏目医者に有る山に有る山に有る
山に有る山に有る山に有る山に有る

旭乃月病の袖に有る山に有る

機織織る窓より甘乃笑ひ交

栗橋

幸手の子次 所関所有利根川船坂
所社糸の長ハ船橋くくる

新穂原来る関のくくる

小山

大文字屋といふ道内屋有る大をへ
法白といふ

酒花と海生の縁はりぬけ

築波

男耕山女耕といわれも昔も此山を
人信をとおす

笠間

常陸山操中築波の所あり此後く
及といふ所あり此の海といふ所を
上河下丁の海と隔てて是を常陸
地といふ也此の杖を渡りて此の
常陸国といふ小川

水戸

常陸国といふ小川

初爰持くく小妻の常陸屋 一溪

みふと

水戸中ノ宮城といふ所のくく不
不登并町といふ

磯乃濱

くくとの海といふ磯乃濱

土浦

水戸分十二里水城下總て所あり

碓城

細の名所の不あり

番よ子以成せく碓城の系車

下妻

碓城の系車の産物といふ下妻系

下妻や手織本綿の名踊 一洲

店内

武蔵のくく店内といふ

小金 布絶

糸戸城に於て沈没する有小金糸といふ
糸也ての空長なりては八里余
己の日に於て者多し

神の灯は深夜に燃る已待の夜

美 宥

弘法古法善宗大地之庭に大木の根を
秋に伐りて之を物多し大木を切りて
燈橋に作りて之の方の子見たる明神宮
在たりて之を名々の井と云ふ其地
ありて之を弘法古法善宗の
と見ざる也

市 川

所國所なりて和編と云ふ

小 松 川

東首西葉の名也市川と逆井のなるなり

葉の花乃伸干 着西に花建と

仙 臺 河 原

陸奥古様山麓を發して之を云ふと云ふ

芋干夕日乃 光る丘 泊

富 々 園

八幡宮の社地也一別尚水代を云ふ其地
年々四月十月水光の自り有伸葉は其地
昔及そのめ様を植てその光接といふ干
之を極くる也之を仙臺といふ其地
其の十干子星に於て其地の如く其地
祇宜居士の冥社なり祇宜冥神輪轉大光明
お取昔回し由流りて冥神子星といふ
二羽葉を其地は冥神子星といふ八月十五日満年
糸糸有

手取打て糸は月子譲りて 一洲

冥 岸 寺

塔中雄松院に古そのめの石塔なり
其寺古を糸を建と云ふなりて糸
糸堂と云ふなり

洗濯橋

石橋の海手ありいづれか也此名有
りいづれか或るは

夕日と三日月の投網

鉄炮洲

築地の海手あり空井橋と云ふあり
西本形寺の次大寺之長月あり
大分と水鏡歌集

筑地

舟船の舟つら見ゆる水鏡風

本撰町

三芝石の内蔵田初海産の蝦下り
業作堂りし山王の蔵所八百十三年
那集梅本堂おとこし毎年二月
十日完結りし一年を言ふ

茅場町

該所の舟は橋より略して次は
二里の晴ての長馬に船指りし
能く不舟の築業の地あり

日本橋

一石橋

日本橋の並びたる石の橋は長
石位よりては名なりと云は橋の
橋浅瀬橋神田橋若盤橋派屋橋長橋
石橋日本橋を名するはつ見橋といふ
和田金門の舟の橋は石の橋といふ
雷橋といふ新虎梅竹といふ

龍の口

龍の口は鴨は来りたる龍の口

龍の口よりふり雨は息をい

中とし

日本橋の橋橋の川名なり

土橋

幸橋の市芝者の市立所あり

芝口

土橋のつばき之本橋下芝石龍見世まつ
と此芝口連中身といふ

積りしを教へ返りて文者

芝口も芝に於て口と判く所

鳥森縮尾

鳥居の下之芝の別名社氣脚(一)有人之

芝切通

後宮の増上寺の芝の山の上は控樓堂有
切通の芝も此の

三田

春日大明神の宮居有リ

かきつけ丁

後宮の縁の芝をかくる木かきつけ丁ある所
又鳥居山の上は芝切通の山は名もかくる所

伴文子

楚の名物あり

楚と踏飛べ不化の點乳

長谷寺

日新江の芝をかくる所は長谷寺の芝文子の
親名有大名あり

廣尾

日新江の芝をかくる所は廣尾と云ふ法は廣尾
多しある所は廣尾と云ふ書あり

摘草も遠入廣尾の車

鶴乃乃形も廣尾の形

窪町子

日新江の芝をかくる所は窪町子の名あり
くなく草子といふ

茄子賣江戸紫乃自惚し

藤とありし上るの何れも免る

湯子も在る程昔はありあり

今井谷

赤坂喜小麻布の芝の所は名も今井の
日新江の芝をかくる所は今井の芝は
所は四季咲の杜をかくる所は今井の芝は
切通の芝は

氷川

赤坂の内氷川大明神宮居あり
今井の二月一日あり

小六の宮

元氷川

敷ヶ橋

千詰ヶ谷

溝々々藁々々て来る夜の雪

芥豆店

笹寺

桃園

桃の夢成候て思ふ名は是の字に翁

系町子

川田ヶ窪

穴八幡

代糸々手前此形ハ眼成りて

侍掃

護國寺

日所後聖徳寺境内より川宮の神社と
もいふ氏子入交りて有る多乳日所

日不表修寺への上赤也天の宮有赤天の
川氷川川氷川の地成り宮は色下を宮
下といふ

赤坂宮の石は新川ありて較りて
也此名有て虚説を

八幡の宮有也年産能て新日所
と云日不千日寺ありて如くあり

溝々々藁々々て来る夜の雪

日所赤也の内新宮の中赤笹寺の
はは名あり

日所赤也の内新宮の中赤笹寺の
はは名あり

洞橋の邊を田の時毎日赤木
桃を平といふ所を種く洞橋

牛也一内法善勤法の大井宮あり
田のく溝之り新あり

系町の邊あり

川田のく窪の宮ありて赤木成り
よつて名あり赤の宮あり

代糸々手前此形ハ眼成りて

穴八幡の宮ありて赤木成り
よつて名あり赤の宮あり

侍掃の宮ありて赤木成り
よつて名あり赤の宮あり

護國寺の宮ありて赤木成り
よつて名あり赤の宮あり

護國寺の宮ありて赤木成り
よつて名あり赤の宮あり

依保娘が話藝に躰蹈の如 堤亭

爪先てありて通る 子洗鉢

大塚の子乃護玉とて日よゆける

氷川明神 猫まき橋の上菓鴨の氷川とて


元木 袖漏り妻

枯の仲子 元木の六ふゆ院

桶里 おけ村といふすまの嶺立物の場不阿

魁ヶ谷 岩槻及中六砂市の立所あり

戸田 志村のつき返りあり

おかしらとて 志村の喜お話あり 

鶯の巣 右口より熊ヶ谷のよき茶

新録る場 牛橋の津巻奥の山と新録る人並較の時置る所上流よりとて此名有とて

毒林 平川奥の山天神の地ありとて一曲編の山形虎林作のりあり

竹橋水門 是と梅竹の弁あり

平川 おかしら天神の宴振ありとて平川奥の山ありて後よびと梅の

天神の場 平川と津巻の両者一は名を北巻とてありとの地を富と改てて場一節あり

毒の梅を 北沢のつるを

貝坂 旧所坂屋今貝多く換りてより此名を改ふ又何某甲斐の地於甲斐塚とてしりて

若菜寺谷

旧所六丁目の若菜寺谷門堂ありて室日那集
近江茶庄も出来て繁榮榮子歿す

番八おろせぬいそむ川宮

山王

虎ヶ野

麴町の山田の場一町不申多礼六月十日戸
町に不申神の末止所橋の南 柳上院有り
安藝家山田家の名の坂之末川の海を尾崎
各々名所ありは不申すこれと云ふる
阿の山田家の水産の坂千す此の坂
坂の傍日笠と云ふよりつては名所

榎坂

酒池の上大木の板の地は名を呼ぶ八柱と
か本おゆは板子造の形をわけ八柱
ありし形ありと云ふ一層揚板をおとむ
形あり

葵ヶ園

虎ヶ川門

増上寺

金地院

泉岳寺

真藍寺

目黒

旧所虎の川上あり葵ヶ園と申
雑ありとも葵ヶ園一と云はれり
旧所山田藩の門あり此の虎の川門
梅林竹橋の門是と云ふ虎の川門と云ふ
所代々様所異名あり此の虎の川門あり
と云ふ子大木あり治屋あり四方子宮あり
増上寺の表様宗より大寺之
後世家の二塔并四十七跡の墓有葉内をいへ入
るるや城あり

子も申え遠入目黒の垢離え場

る度系一の地呂敷千一終

粟洗ふお流る目黒の田

不初言景地勝ありて垢離え場之
正丑九月年一那集粟餅の名物
あり餅花と云ふ目黒の餅を云ふ
一してハ難あり

石坂千保子とて此市一とく

餅苺の口香子目黒八味て石

黄金の井

牛込河小坂の下に有

茗官

神楽坂の上八幡宮の宮石を丁の四丁
て町が有

牡丹屋敷

日所の下迄の牡丹屋敷を西門と云ふの位
在る由に在りて八幡人をと有

牡丹咲くむら—
此は名と呼ぶ所

猿寺

牛込通寺町門の左根子猿の尾有
此は名と呼ぶ所

獅子古

日不右子古

江戸川

とんど橋の左に神田川之流を經
の名と云ふ所此は名と有

とんど橋

昔ハハセキ有る所の寺之江より
名をハセキと取拂ふ

牛天神

天満宮の裏に有る石坂宮—小石川の
能きと云ふ所—京地也

眼の玉宴付て老る遠目鏡

茗荷谷

小石川の内に有るの上は石坂宮といふ寺
あり門内には能き有

云傳と云れて一房の茗荷谷

洞坂

駒込より田畑に有る所あり

鱒ヶ淵

千石大橋の上にもむら—は石坂の位を
より—よりては名あり

品川

新宿の内には觀音堂ありはありて是也
多し—旅立と見送る人よりて別

天王洲

品川沖に三浦の島あり是は名あり
鉄砲の場あり

羽根田

三河の先づの場不茶子ねん

病人の朝飯白く羽根田の帆

大原河原

むら—お茶子お茶子の温る者とい絶る

寺は玄界千妙業乃後

秋田

秋田川の東梅の名と云うありき
見物あり

人の氣乃初き始や毒洗瓦 りの母

富士南吹と秋田の梅咲く

子以抱て通る杉田此れなりき

江の橋

お編子あつた

子安

観音堂あり—子安明神の本地併し
云うよみておのる子安

大山

不初堂といふ所十八丁麓千大橋
ありて坂あり

石号

石号堂あり—六月廿七日
と云ふ編籠集

小田原

西條下是乃箱籠—四里所の中箱籠と
らるるといふ所あり

弓くも夢くはあ森や一初紀 園廿

之牧橋

土橋あり—是乃橋の原—別とてまんち
りの名あり

塔の海

之牧—の上原の宿あり
田原—此乃海あり

湯元

之牧橋あり—是乃所あり
熊野神社の宮あり

宮乃下

熊野神社の宮あり
此乃明神の嶽あり

堂ヶ鴻

宮下八丁下りてむき所之

底倉

日所三丁下り川

宮城野

宮下下り十八丁そと名物宮城野村
氏家多し

芦の湯

二子山の麓宮下八丁之里七湯の内乃言
き不あり

伊勢

内宮外宮山宮瀬川宇治橋川湯を舟浦
二見新熊古市天の宮戸宮川鬮藤妻
林内地守氏の宮西り登梯林山田

辺江

幸高只田志賀三井栗得塔不夫之
淵田石山比良舘山布生湯

京

之條大橋少橋本宮下白川橋祇園
渡外八坂日条河系堀川千本宮

丹波口橋京出口湯の小路鶴子寺
布板八坂小京栗栢野竹地加茂
乳言々奉りむき言々津西條流哉
大井川吐月橋うつ川時宮河山
小野松の尾と素糸雀東山と
宗倉小野宮弁田伏見淀名科

小原甘も恵方のうたを愛する

子ハ留まらずに去り小原は里本愛

類は養ふとされと流戦の片候

眠い眼もつる女とて定乃水車

物如日条よりぬるる山舟

本屋丁の猪子見て旅子倦

赤てたるやせ蘇子ぬ。神の糸 秀鳳
禰子や松を凡乃動きあけり 時慶
梅薫る岩や旅麻のり付物 秀鳳
矢ありてけ遠る燕うれ 十秋
彩舞を振るむる方日あけ 秀鳳

有朋自遠方來不亦樂乎

糸一以式風雅集形よきる 一洲
日をも少一能上りて坡岸に 秀鳳

翁の吟やまのり

永き百代は愛や、く免千一舟 鶴籠
野はくく風黒くく一丈蕨の糸 秀鳳
爪の葉子よりやく畑や小松川 枝取
土城出く河もくもん之に暮る亦 秀鳳
七夕や河の流る井の硯も 水戸 牧童
冬月や古詠千つる湍田川 雨共
夜もあけぬ。一重乃梅の枝 秀鳳
京千二の川の河
七夕やかゝるしこのつる星合 時交

夕葉や桃の下行かきうりる 秀風

踏ふる。庭のゆるみや梅枝を 寸末

る。のひひ。仲ひそくはるを 秀風

る。麻もくは出てり涼の糸 快毒

若う代のふる枝をまゆけ桐の花 秀風

志く急やいろはも尾久の糸を 麟招

明星はゆくとんきうくおとを 秀風

散らるる色や思案の速せうく 菊智

庭もせや紫陽花極て日の白ひ 秀風

時向さる中の晴るや富士見坂 李蘭

雲は半峰のてとゆる。鶴川は 秀風

ふして壁洞も拙くまのそふ 晋史

川物や涼しき網乃ありむ 秀風

蒜の芽乃怖しき思をこりけ 麦奴

蓮はさよふ夏のつとむを雨 秀風

舟舟やるのまやと空まのり 一洲

袖秋やまゝ唐下のとちう埃り 秀風

小燈乃書を待却し指う水 伊和久

七夕の松紙より八枚心く翠

くもく夜乃枝折とあぬ梅花

葦やあをまのの煙る垣根越

迎あけをてとくくく波子浮

魂糸くいま心のをまうくの

まうくまの代して雲は夜以

月千書ハ歌給けくまの先

冥也も通くくく想やあのみ

名月や鳴くくくかむ波は照

冠野鳥とくく見まうく田極

雨風城よのあくくく尾花く

毒河くく知くく風や曲く

朝風千葉船の帆は層く

朝風や花はあき借く井も借

柿成るて不とくく英徳の秋

物書やあくく成たは巻く一

梅枝のあきき求く新あを

くくく藤の松時斗や丁の夏

秀風

如英

秀風

糸條

秀風

蟻控

秀風

侯主

秀風

麟招

秀風

無人

秀風

寸束

秀風

文束

秀風

雅徳

あつと道なき葉の花をさへて枝をたぐ

秀鳳

朝日さへ枝のさへや松乃表

町女

楳のさへやささより更へ細代書

秀鳳

寒梅や見捨一枝の本るより

旦中

目覚めくくく遠に星やま娘

秀鳳

山菜花や落葉の申さる者一跡

李蘭

門くく年水櫻やさし物

秀鳳

待宵や望ましく夜のつれづれ

時英

除根深く巨魁は梅に屬さる

秀鳳

早し女やぬく向くく子富士山

魚貫

勢は子柳ハ雨の姿の奈

秀鳳

舟の歌や戸さへぬ氷代の田舎と

雨橋

若葉千々立地は華のまうり

秀鳳

室乃戸城明水は梅は白ひう

一柯

藤子情士と夜毎よるを愛ふ

秀鳳

酒法ふく常春もや花姓系

岷江

秋秋や風も葉さしハ一矢射く

秀鳳

虫下や一間くく風薫れ

襖南

家將そ、家終そ、心け、家終、秀鳳

去、家終そ、家終そ、家、秀鳳

紫の、連、立、ち、思、萩、乃、京、秀鳳

朝、の、暮、つ、て、常、も、白、ふ、暮、蒲、式、雀、車

歳、一、夜、海、草、母、日、の、次、下、哉、秀鳳

炭、竈、や、里、も、標、れ、此、立、ち、う、う、堤、河

山、吹、の、黄、草、始、と、う、ふ、山、の、裾、秀鳳

藪、の、奥、の、照、り、ハ、何、を、鳥、爪、麟、拓

卯、の、花、の、出、し、て、と、う、ふ、松、之、也、秀鳳

名、月、也、啼、呼、う、う、下、の、身、大、雪

之、日、月、と、と、う、遠、く、行、く、郭、公、秀鳳

桂、搦、の、田、の、日、暮、や、う、ん、出、ち、高、橋、童

砂、の、上、の、う、う、の、漁、村、乃、鏡、う、形、秀鳳

東、雲、の、蓋、と、ふ、明、を、う、ふ、の、月、携、端

帷、子、乃、蝶、々、目、の、友、き、粽、う、丸、秀鳳

六、の、糸、の、七、る、活、人、こ、う、海、河、う、一、洲

燈、籠、も、只、入、ハ、似、の、身、一、足、か、不、秀鳳

立、寄、れ、ハ、あ、れ、あ、る、蛙、う、雨、岩、谷

福書いふうとつうに能乃音 秀鳳

千ヶさ糸くたう記

船とあつ帳とぬる蓮の寺巡り 時菱

誰う門へ踊の望乃際本このし申 秀鳳

茶の花や繁れ時ち名にゆれり 寸末

我河りと風と知れぬや葉乃花 秀鳳

さうらゝ光輪とすも雲このゆ 五秋

一時雨日毎くまありさうら 秀鳳

名月や猿を河ゆありさうら川 仙雀

月よ秋の余情は来うり葉の宿 秀鳳

後乃月と流し一角と雲并哉 逸老

寧垢歌の猿目と漆一川の面 秀鳳

星はまうと花と流りて葉の流 麟拓

離の目や皆是餅り一人斗 義彰

白雲と見るとや上陸は花盛る 賀明

暮る日を惜しむや花の飛も山 文星

蔓との花空ぬれ鈴は秋 晋河

竈了もはあ出るとは夜の月 周里

あつ月小つる女旅の宿より一漢

毒う毒や敷乃く一旅人通り 浪洲

よ一河とあつて旅の伴も危 晋如

梅香あつたの顔見世を脱し
系部よりあせ業一使送り侍る

名とくつるや難波子自京を至梅 時慶

結もく柳もあつて蘇乃花 堤亭

花巻り内り石舟ぬ人あつて 亀壽

鶴八樹もあつて星と音 園甘

音分けてゆ記を捨てる大根皮 麟拓

水車休了の淀のそこの那 里葛

風をあき小世乃初く時あつて 一洲

名月子丁城守を角りく

花子送り月もむ之川丁の交 菊芳

あつて旅の一夢も海に雨降る子 菊駕

花の奥堂の袖くつてお祭り 且中

袖笠乃あつて絶く旅子哉 才朱

年々内子あつて仕あつて寶船 秀鳳

名子あつてあつて春も侍を梅と旅 晋朝

硯齋之人志をくく旅りの内
集編成く帰府所りり九八
四時乃叱を乞ひ帰るる出た

春

鶯も下をほくくうり花菜畑
清もとも梅もあをうれりふの香
池あり初くや梅は星明り
柔平もどふとあくる横のね
此地吾姓名をふき山は梅さえ
石点や鼻つくとする石は西

硯齋
文
旅

旅りのおろくく旅るる杖と体思く

此花とあはれに魚うす木風等 又 旅
雪やを川者吟とく秋東岳
花も清草履賣りり窓の茶
芙蓉亭は拓うれ生乃
雲笑は空を思ふるまを
くふまのり花子もくよる月鑑

夏

思ふくもく月と啼消は子観 又 旅

物好乃雨といふはあはれ
家園に生れては世にまはる
袖責美古き子あまふも男あま
又月母は海はくしあまふも
雲乃山峯遊まはる海はく
夕月母のそひあまふも
河峯や松生まはる中
さきかしの誘ひはく涼船

系三のよき

夏瘦のさきを衣あはる麻は西
木へ飛つた河峯味はく螢の那

宮戸川は船をくかへる

あはれ風は流まはる月涼し

あまふも

物好やまはる世にまはる風あはる

種

今般林と知りて人又まはるぬ人

六条の橋泊

葦子配し都乃、藤垣逢 文藝

之、海女女のつとふ枝葉萩

舟月や八日、運き明く〜に

家、の妹と知つて居、之角力取

籠、のや誰、以、結、の、を、立、こ、〜

稲妻や乃、踏、を、何、〜

半、の、ハ、誰、う、喰、ひ、き、く、其、日、舟

月、影、も、膝、下、に、る、え、の、藤、の、花

夜、嵐、や、抱、起、〜、言、葉、枯、梗

名、月、や、こ、の、〜、返、る、橋、髪、の、文、藝

一、つ、宛、回、毎、子、月、の、牡丹、の、風

本、音、跡、仍、清、り、〜、や、十、三、夜

何、頃、〜、白、の、舟、の、十、三、夜

雪、東、秋、や、解、の、命、も、い、そ、う、〜

白、葉、や、又、〜、と、定、ん、花、も、あ、〜

朝、火、の、咲、く、〜、を、ぬ、れ、て、け、秋、そ

冬

小、原、甘、き、養、作、と、あ、り、袖、時、面

日守れりる及中守り細代守 文
あるものやとてよと。時節うね
書れりやと食の事も余乃家も
水仙や河千毎とてとてあえ
濡き色ハ柳ハ緑れを川時節
池あや氣見る翠色筒井筒
神時節その月雲乃介あり
明方ハ子鳥の三つもは散るは
空葉や雪より多とてはるはた

木の編も心名高と点乃
白多一ととあり 佳系
産物如越向ハ神編の白
故果ひくは注立有届

一 海 跋

撰者

松壽菴一漢

校合

桐榮舍 秀鳳
松綠館 一洲

安永五丙申中春

東武下谷竹町

書林

星運堂花屋久治郎

萬延元庚申上笈 儼桂葺月皎 字之



校合

松書卷一

桐樂會

松錄

安永五丙申中春

書林

星

萬



